

令和5年度第3回大船渡市学校支援活動運営委員会

日 時：令和6年3月13日（水）午前10時

場 所：大船渡市役所 第1会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

協議第1号 令和5年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

協議第2号 令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

4 そ の 他

5 閉 会

大船渡市学校支援活動運営委員会委員名簿

任期：令和5年6月7日～令和7年3月31日

役職	氏名	区分	所属等	任用
委員長	高橋 多鶴子	学校教育関係者	日頃市小学校長	新任
副委員長	紀室 浩	学識経験者	元末崎小学校教諭	新任
委員	高橋 昭英	学校教育関係者	大船渡中学校副校長	新任
委員	梅澤 聖史	社会教育関係者	末崎小学校 PTA 会長	新任
委員	菅原 優子	家庭教育関係者	前海の星幼稚園園長	新任

協議第1号 令和5年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

令和5年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第2項の規定に基づき、意見を求めます。

令和6年3月13日

大船渡市学校支援活動運営委員会

委員長 高 橋 多鶴子

事業名	家庭教育学級		
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携し、子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要 (実施状況)	市内小学校7校、中学校2校、こども園・保育園・幼稚園4園を対象に家庭教育学級を開催した。 (延べ9カ所、延べ参加人数443人)		
評価項目①	学校・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1校(園)あたりの前年度比参加人数	
評価方法	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年度比同数以上 (令和4年度実績: 56.5人)	
実績	97.8%	49.2人 (87.1%)	
達成度	◎	○	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	学習内容の家庭での取組意欲。 「そう思う」「まあまあそう思う」と答えた人の割合	学習内容の理解度。 「概ね理解できた」「要点は理解できた」と答えた人の割合
評価方法	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
実績	97.8%	90.4%	93.4%
達成度	◎	◎	◎
成果	<p>評価項目①について、1校(園)あたりの前年度比参加人数が目標値に届かなかったが、昨年度の数値よりは高くなった。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、生活様式が戻ってきたことが要因と考える。アンケートについては、すべて目標値を上回った。</p> <p>また、当初の実施対象校(園)のうち、インフルエンザの流行により中止となった学校はあったものの、概ね実施することができ、さらに、令和6・7年度実施対象校からの実施希望もあり、予算の執行状況を確認しながら実施に至った。各校(園)における家庭教育学級に対する取組意欲を感じた。3年に1回の割合で実施する効果が表れている。</p>		
次年度の課題	<p>中学校区での実施ができていない状況にあったことから、実施について、各小・中学校で実施するなどの見直しを考えていたところであったが、日常生活が通常に戻ってきたこともあり、実施対象校で概ね実施することができ、中学校区においても実施ができた。</p> <p>3年に1回の割合での実施効果が出ていることから、引き続き、小・中学校、こども園・保育園・幼稚園や教育委員会、子ども担当課等と連携を密にしながら、家庭教育学級を実施していきたい。</p>		

達成度 ◎: 100%以上 ○: 80%以上~100%未満 △: 50%以上~80%未満 ×: 50%未満
※ 目標値に対して

事業名	家庭教育学級「英語体験教室」	
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携し、子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要 (実施状況)	夏季から秋季にかけて、保育園等における年中から小学2年生までを対象に、国際コミュニケーション能力の育成や国際理解の促進に資するため、楽しみながら英語を学び、異文化交流を図る機会を提供する。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化。 「新しくやりたいことがみつかった」「アイデアを考えたり、工夫することが楽しかった」「自分でできることがふえた」と回答した子どもの割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	100.0%	51.6%
達成度	◎	◎
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	学習内容の家庭での取組意欲。 「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した子ども、保護者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	87.5%	
達成度	◎	
成果	受講申込者が募集定員を上回り、抽選で参加者を決定したことから、市民の学習ニーズに沿った魅力ある教室を実施することができたと考えている。 抽選で参加できなかった方のため、2回目を実施し、1回目で参加できなかった親子等が受講することができた。 また、講座に参加したことによる変化について、「新しくやりたいことが見つかった」「アイデアを考えたり、工夫したりできた」「自分でできることがふえた」の合計が51.6%となり、目標値を上回った。子どもの健全育成の効果が表れた結果となった。	
次年度の課題	学習ニーズが高く、人気のある教室を開催していることもあり、抽選等により参加できない申込者が多い状況となっていることから、引き続き、希望者全員に学習機会を提供できるよう工夫していきたい。	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	青少年体験学習事業	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と子供たちに多様な経験を積ませて青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要 (実施状況)	今年度から、小学4年生から中学3年生までを対象として、ステンドグラス制作体験教室を、保育園等における年中から中学3年生までを対象として、ドローンプログラミング体験教室を開催し、多様な体験学習の機会を提供した(参加人数53人)。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	参加者のうち「新しくやりたいことが見つかった」「アイデアを考えたり、工夫したりできた」「自分でできることがふえた」と回答した参加者の割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	101.9%	61.6%
達成度	◎	◎
評価項目②	自主性の育成	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した児童・生徒、保護者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	96.2%	
達成度	◎	
成果	<p>「ステンドグラス制作体験教室」は、今年度から新たに始めた教室であったが、「ドローンプログラミング教室」とともに、受講申込者が募集定員を上回り、抽選で参加者を決定したことから、市民の学習ニーズに沿った魅力ある教室を実施することができたと考えている。</p> <p>また、「ステンドグラス制作体験教室」については、はんだごてを使用する工程が含まれるため、対象を小学4年生以上と範囲を狭くしたものの、定員を超える応募があり、学校や家庭で体験することが難しい機会を求めた親子が多いことが窺えた。</p>	
次年度の課題	<p>学習ニーズが高く、人気のある教室を開催していることもあり、抽選等により参加できない申込者が多い状況となっていることから、希望者全員に学習機会を提供できるよう工夫していきたい。</p> <p>なお、ドローンプログラミング体験教室については、令和元年度からは始まった教室であるが、一定の成果を挙げることができたことから、次年度については、青少年体験学習事業として、別の講座を実施する予定である。</p>	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。				
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する。 ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする。				
事業概要 (実施状況)	① 市内各小・中学校11校に40人スクールガードを配置した。 (登下校引率型28人、通学路巡回型11人、スクールバス添乗型1人) ② 地域住民をスクールガードとして登録し、登下校時の安全監視を行った。				
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保				
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	0件		0件		
実績	0件		0件		
達成度	◎		◎		
評価項目②	地域住民による参画				
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取組に対する認識の拡大
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート
目標値	39人	75%	75%	75%	75%
実績	40人	89.1%	75.7%	95.9%	95.4%
達成度	◎	◎	◎	◎	◎
成果	① 登下校の引率と通学路の巡回や、配置希望のあった学校に新たにスクールガードを配置することで、徒歩通学児童・生徒の交通事故を防ぐことができた。 ② 事故の発生及び声かけ案件は0件だった。 ③ 児童・生徒の日々の成長を見ることや、児童・生徒とコミュニケーション等を図ることにより、スクールガードの90%近くが生きがい・楽しみを感じた。また、70%以上がスクールガードをすることで新たな知り合いが増える等、スクールガード活動により、地域住民の自己有用感を高めることができた。				
次年度の課題	① 登下校時にスピードを出す車や不審者等の危険なことに加え、通学路に熊の出没が危惧されることから、児童・生徒の安全のためにも、今後とも登下校時の安全確保対策が必要である。 ② 次年度も活動を継続を希望する保護者の割合は95.0%だった。事業継続のために、地域住民の協力を得ながら、人材の安定的確保が必要である。				

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	学校支援事業	
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。	
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。	
事業概要 (実施状況)	学校より要望のあった地域コーディネーターを11校に9人配置し、生涯学習課に1人配置した。また、地域ボランティアを14校に17人配置し、学校支援を実施した。 (図書ボランティア：14校15人、金管指導ボランティア：1校2人)	
評価項目	地域コーディネーターの人材確保	
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する	
指標取得先	年間実績	
目標値	15校	
実績	11校	
達成度	△	
評価項目	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成	
評価指標	図書支援を行う地域ボランティアの育成を図るための研修会を開催する	研修内容をボランティア活動に活用できると回答した人の割合
指標取得先	参加者の割合	受講者アンケート
目標値	75%	80%
実績	73%	100%
達成度	○	◎
成果	<p>① 地域コーディネーターの全校配置には至らなかったが、希望のあった11校には配置し、地域住民のより積極的な学校活動への参画を促した。</p> <p>② 図書支援活動地域ボランティア研修会を大船渡市立図書館の司書を講師に開催した。実際の活動現場の1つである大船渡市立越喜来小学校図書室で開催することで、普段の業務を踏まえた実践的な学習を行うことができた。 また、研修内容を新・旧ボランティアがどちらも学べる内容にすることで、効果的なボランティア育成を図ることができた。</p>	
次年度の課題	<p>① 単独で活動している各校の地域コーディネーターを集め、各校の実施状況や活動を実施する上での互いの悩みを話し合える機会の提供等、より円滑に業務が進められるよう工夫が必要である。</p> <p>② 学校支援ボランティア研修会において、ボランティアだけでなく担当教諭の参加も呼びかけや、意見をすることで、学校支援における、学校・地域の連携強化を図る。</p> <p>③ 地域コーディネーター同士の交流を図ることで、市内の地域学校協働活動の推進。</p>	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業
事業目的	学校運営協議会を軸に、地域と学校の連携を強化することにより、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成を図る。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営を図る。
事業概要 (実施状況)	学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営のため、学校運営協議会委員に対し、新制度・先進事例や熟議のあり方についての情報提供を行う。
評価項目①	学校運営協議会の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年2回以上
実績	各小中学校ごとに委員を選定し、2回以上学校運営協議会を開催した。
達成度	◎
評価項目②	学校運営協議会において熟議の開催
評価指標	熟議の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上
実績	10校が熟議を開催した。 ※ 「協議」については含めないこととした。
達成度	△
成果	① 各小中学校ごとに委員を選定し、各校ごとの特色ある活動が実施された。 また、地域コーディネーターが中心となり、学校のニーズに応えた活動が計画、実施された。 ② 学校や地域が抱える課題を明確にし、今後向かうべき方向性について確認するための熟議が実施された。
次年度の課題	① 活動3年目となることから、これまでの改善点を見直し、学校と地域の協力による児童生徒の教育環境の向上のため、活動の支援を継続する必要がある。 ② 熟議の持ち方、テーマ設定等について、各学校の事例を情報提供していく必要がある。

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

協議第2号 令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第1項の規定に基づき、意見を求めます。

令和6年3月13日

大船渡市学校支援活動運営委員会

委員長 高橋 多鶴子

事業名	家庭教育学級		
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要	市内小・中学校5校、保育園・こども園・幼稚園4園を対象に家庭教育学級を開催する。		
評価項目①	学校・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1校（園）あたりの前年比参加人数	
指標取得先	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年比同数以上 (令和5年度実績：49.2人)	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	学習内容の家庭での 取組意欲。 「そう思う」「まあまあ そう思う」と答えた人の 割合	学習内容の理解度。 「概ね理解できた」「要点は理解 できた」と答えた人の割合
指標取得先	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
事業名	英語スクール「英語体験教室」		
事業目的	学校、保護者、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。		
事業概要	夏季から秋季にかけて、保育園等における年中から小学2年生までを対象に、国際コミュニケーション能力の育成や国際理解の促進に資するため、楽しみながら英語を学び、異文化交流を図る機会を提供する。		
評価項目①	創造力の向上		
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化。 「新しくやりたいことがみつかった」「アイディアを考えたり、工夫することが楽しかった」「自分でできることがふえた」と回答した参加者の割合	
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	50%以上	
評価項目②	自主性の向上		
評価指標	学習意欲。 「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した参加者、保護者の割合		
指標取得先	学習終了後のアンケート		
目標値	80%以上		

事業名	青少年体験学習	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と子供たちに多様な経験を積ませて青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要	夏季から冬季にかけて、保育園等における年中から中学3年生までを対象としたさまざまな分野における体験学習の機会を提供する。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化。 「新しくやりたいことがみつかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫することが楽しかった」と回答した参加者の割合
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した参加者、保護者の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	

事業名	スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。				
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する。 ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする。				
事業概要	① 市内小・中学校の通学路にスクールガードを配置し、登下校時の安全を確保する。各校の状況に応じ、引率型、巡回型及びスクールバス添乗型により実施する。 ② 地域住民をスクールガードとして登録し、通学路の危険個所の巡回や、登下校時の安全監視を行う。				
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保				
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	0件		0件		
評価項目②	地域住民による参画				
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取り組みに対する認識の拡大
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート
目標値	39人	75%	75%	75%	75%

事業名	学校支援事業				
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。				
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。				
事業概要	地域コーディネーターを配置し、地域ボランティアによる学校支援を実施する。図書支援活動地域ボランティア研修会を実施する。				
評価項目①	地域コーディネーターの人材確保及び情報共有する機会の提供				
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する		地域コーディネーターが各校での取組・課題について情報共有することができる交流会を開催する		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	15人		3回		
評価項目②	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成				
評価指標	図書支援を行う地域ボランティアの育成を図るための研修会を開催する		研修内容をボランティア活動に活用できると回答した人の割合		
指標取得先	参加者の割合		受講者アンケート		
目標値	75%		80%		

事業名	学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業
事業目的	学校運営協議会を軸に、地域と学校の連携を強化することにより、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成を図る。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営を図る。
事業概要	学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営のため、学校に対し、先進事例や熟議のあり方についての情報提供を行う。
評価項目①	学校運営協議会の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年2回以上
評価項目②	学校運営協議会において熟議の開催
評価指標	熟議の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上